



勸善懲惡 讀切講釈

石井常在門と聞へん生得芳藝ふこころいよまをく
 妙音小心を炭し辛気真紅のまへまへ其功終小鮮多
 器量變平てせわ用ぬれ式もは同輩の士是を恥て田舎
 堅気の石井あるを廓小連とゆは耻ぢめん其企を
 奴僕より主人常在門へ内通せしより
 直ふ由論へ奔走して名や高尾
 初會の約束合ひ口もよは香合
 を途夜のあかりと持帰り
 無程湯會の席上にて石井が
 高尾を名ざしを目引き
 高尾を讀まや全盛
 高尾何ゆふ爰來る
 花事ゆんとあざなり
 笑ふ仇忠が真こころあり石井が望
 エカ一事も横道の先をらて待伏 常在門が歸る
 さを切てくるを曲若とう川て刀の錯とまきれ了愚ある

石井常在門

後小信臣の義我心の
 表あそ浅間

修政三内
 身修重

修政重

ホリ丸

花陣入述

